



文化祭声を合わせて響かせる
みんなの思いを歌にのせて

倉吉校舎 中学3年 本庄 希星

君たち
僕たち



米子校舎 小学6年
安田 皓亮さん

今日の算数の授業は水の容積と量の関係。牛乳パックの量1リットルは千ccであることを利用しました。宿題は「なぜペットボトル入りの牛乳はないのか調べよう」。授業とは関係ありません。ただ調べてほしかったのです。安田くんは答えをこう準備してくれました。「牛乳は栄養がたくさん入っているから細菌が繁殖する。衛生面がダメ。でも最近OKになったけど、紙パックのほうが安いからペットボトルにならない」のだそうです。

そんな探究心豊かな皓亮君がどんなものに興味があるのか知りたくて取材しました。答えは鉄道での旅。「乗り鉄」ですね。ハイ、気が合います。やくもの新型車両は空気ばねがいいとか、サンライズの車両も古くなってきたとか…。各駅停車に乗り、ある駅で降りてみる、たとえば県東部の智頭駅周辺のレトロな街並みは意外と楽しいのだそうです。

将来はもちろん運転士。地元もいいですが、秒単位で行き交う都会もまた魅力的です。旅が仕事っていいですね。

「旅」とかけて「牛乳」と解くその心は、どちらも鉄分多めでしょう。(担当 佐布)



高校リターン科3年
小川 志湧さん

彼は1年生の頃から陸上自衛隊を志望し、現在その採用試験期間の最中にあります。今は一次試験を無事突破し、後に控えている面接試験に備えているところです。彼が陸上自衛隊を志したのは親戚のおじさんの影響のようですが、体力があつて体を動かすことが得意な彼にはふさわしい職業だと思えます。

そんな体力自慢の彼が最も輝くのはもちろん体育の授業で、その活躍ぶりは目を見張るものがあります。特に一つでできる種目では抜群の力を発揮します。大山登山では他の人が付いていけないほどのペースで進みます。普通の人が登って降りる間に、彼は何往復かしそうな勢いです。また、カヌーでは、もともと経験があるとはいえ、失敗を恐れない思い切りの良さを発揮して、どんどん進んでいく姿が印象的です。

この3年間は、良くも悪くも彼らしく過ごせたのではないかと思います。クラークでの生活も残り少なくなりまして。卒業後は、良いところをもっと伸ばして、より自分らしさを出して活躍してほしいと思います。(担当 福本)

卒業生はいま!



自治医科大学 2年
秋田 拓海さん

office&campus



今回紹介するのは、現在自治医科大学の2年に在籍する秋田拓海(あきたたくみ)君です。大学ではフットサルサークルに所属し、夜は自主的にランニングを続けているとのこと、送られてきた写真を見ると、若葉にいた頃より引き締まって、精悍になったように感じます。

コロナ禍のため、多くの大学の前期講義はオンラインのみだったようで、島根大学では10月から対面講義を再開したと報じられていました。自治医科大学でも対面講義が再開されたのは8月に入ってからで、彼も6、7月はこちらに帰省していたそうです。一般的な大学生でもアルバイトが出来ずに学費が支払えないとか、大学入学後の人間関係が作れない等の問題が起こっていますが、理系学部、殊に医学部では実習が十分に受けられないというのが最も深刻な問題です。自治医科大学では、他大学より1年早いカリキュラム構成になっています。やや英語の時間が少ないようで、本人は「高校の時より英語力が落ちた、吉野先生に怒られる」と嘆いていました(笑)。病院実習は通常4年生から始まります。共に実習に参加する同級生は真面目な人が多く、よい仲間に出会えたようです。実習が始まる頃には、コロナ禍が一段落して、順調に経験を積めるように願っています。

最後に先輩たちへのメッセージを頼むと、こう語ってくれました。「大学はゴールではなく、勉強は一生続くものです。たとえ周りから称賛されなくても、その中から楽しみを見つけられるような道を進んでほしいです。」

(担当 河田)

中間終わって、すぐ期末、ちょっと休息Halloween!



学園NEWS

松江校舎



(担当 古徳)

毎年ハロウィンの日が近づくと、「先生、パーティーしましょう。」であるとか、「先生、お菓子下さい。」などのセリフが飛び交います。

もともとハロウィンは、悪魔を崇拝し、生贄を捧げる宗教的な意味合いの強いケルト人たちの行事でした。しかし現在では子どもがお菓子をもらったり、コスプレをしてみんなで写真を撮ったりするイベントに変化してきました。

松江校舎でも何かできないかと考え、消毒液のスプレースターのまわりを切り絵でデコレーションしてみました。コロナ禍の中、パーティーができない代わりに発案してくれた生徒のみんなありがとう! 時間はかかりましたが、

納得のいくモノが出来上がりました。おまけに先生たちのコスプレもどうぞ。

職員随想

五十五の手習い

門脇 条 司



ことわざに「五十の手習い」「六十の手習い」というのがある。これは平均寿命が短いころの表現であり、現在では「八十の手習い」と言うのが本来の意味に合っている。したがって、五十五歳で新しいことを始めるのはぜんぜん遅くないのである。

近所にスポーツジムができること知ったのは今年の二月初めで、「コロナ」という言葉はまだそれほど耳にしないころだった。運動不足が気になっていた私と妻は「やってみるか!」と入会の予約をした。四月のオープン予定がコロナ禍でずれ込み、私たちが通い始めたのは七月だった。24時間営業で都合のいい日時に利用できる。自分の体力にあったトレーニングを楽しみながらできる。インストラクター陣は皆明るく親切で気持ちがいい。施設も会員もコロナ対策をしっかりとっている。始めるまでには時間がかかったが「ハまる」のはあつという間だった。一ヶ月で目標体重を達成し、筋肉量は増えて体脂肪は減った。目に見える成果に俄然やる気が増している。

コロナ禍の自粛期間に自宅にいる時間が増えた娘が「ギターを弾いてみたい」と言いだした。若いころにほんの少しかじった経験のある(ご多分にもれず「Fの壁」にぶち当たりすぐ挫折)私も興味があわぎ、中古のアコギを一本購入してみた。昔と違ってスマホで簡単にコード表もレッスン動画(例の「Fの壁」も代替コードで解決しててくれる)も見ることができると、これもさすがにハマった。やがて娘と交代で弾くのに飽き足らなくなってきた、ありがたいて給付金を遣って、これ

また中古を一本買足した。初心者用にアレンジされたコード表を見てストロークだけの拙い演奏だが、新しく覚えた流行りの歌や、青春時代のなつかしい曲などを弾きながら思いきり歌うのはなんとも気持ちいい。今では寝る前に三十分ほどジャガジャガやるのが日課になっている。

最近、境港から米子、そして大山に伸びるサイクリングコースが整備された。左手に日本海を、正面に大山を望むサイクリングは気持ちよさそうだ、一度体験してみたい! と思っていた矢先に、ひよんなことから自転車を手に入れた。高級なものではないが、折りたたみ式で、ミニペロという小さなタイヤのスポーティな自転車で、利便性はいい。さっそく必要な装備を調べ、車のトランクに乗せて境港側のスタート地点まで運び、真新しい自転車を走らせた。さすがに何十キロもは走れないが、晴天もあいまってそれはそれは爽快だった。それ以来、あちこちを自転車で巡っているが、最近のお気に入りは大根島だ。起伏に富んだ細い道を息を弾ませて抜けたときに見える銀色にさざめく中海の美しさは格別だ。休憩にちよんどのいい海辺の公園や素敵なカフェもある。遠出のしづらに昨今だが、十分に充実した休日過ごすことができる。

京都で教員をしている教子(二十六歳男)が久しぶりに連絡してきた。高校生クラス私の授業がいかに刺激的で興味深いものだったかを、自分が教員になって痛感していると言う。そして、生徒にとって魅力的な先生になるためには何が大切なのかを教えてほしいと言うのだ。私は、プライベートを充実させることだと返信した。すると彼は「痛いところを突かれました! 目が鱗が落ちた思いです!」と返してきた。旅行、料理、スポーツ、読書、音楽... まだまだ好奇心を持って貪欲に生きて、世の中が面白いもので溢れているということを生徒たちに伝えていきたいと思っている。